

『飛騨高山での子育て楽しい！』 と思えるつながり作り 2nd



NPO法人 飛騨高山わらべうたの会
理事長 岩塚久案子

1. 事業の背景

● 日本一大きな自治体 高山市

- ・児童センターは市中心部に設置
- ・子育て親子向けイベントは、ほとんど市中心部で開催



東京23区より大きい！

● 母親の孤立、情報不足

○市が平成27年と平成30年に行ったアンケートからー

「重要だと考える子育て支援策は何ですか？」

- ・子どもを連れて出かけられる居場所作り
- ・育児について相談したり、親同士が交流する場の提供

経済支援に次いで多い！
しかも、増加傾向にある

よそからお嫁にきたので、
子どもをどこに連れていったら
いいか、わからないわ…



児童センターが遠くて、
子どもの遊び場に困ってます…

知り合いもお友達もいなくて、
孤独です…。
子育てが辛い…

2. 活動の経緯

●これまでの活動一

- ①子育て支援拠点2か所運営：「ぎふ木育ひろば」
(飛騨産の木のおもちゃ設置)
- ②月に一度の定例活動：わらべうたで親子ふれあい遊び
季節のワークショップ
ほっこりティータイム
- ③ママ支援：託児、子育て相談
- ④まちづくり：まち協、企業、各種団体との協働でイベント開催



広い広い高山市では、参加する親子を待っているだけではダメ！

孤独感、疎外感、子育てに悩むママの所へこちらから出向く！

- 活動の集大成としての「親子で楽しむワイワイカフェ」ー(事業①)
- 当団体の活動への参加促進(事業②定例活動・③食育イベント)

3. 活動の目標と内容（事業①）

● 目標

① 「地域みんなで楽しく子育て」

各地域で、地域の母親同士、世話役となる組織や人々とのつながりを作る。子育ての負担を軽減し、交流したり相談したりできるような環境を作る。

② 「人材育成（育成プログラムの作成）」

各地域における子育て支援に関わる人材の発掘、育成を行っていく。私達が持つ子育て支援のノウハウやスキルを、育成に活かしていく。

③ 「飛騨高山での子育て、楽しい」と誰もが思う社会の創出

私達自身が保育者にとって「気軽に相談でき、立ち寄れる居場所」となる。各地域で、地域の方々による「居場所」作りを行う。

● 内容（これまでの活動の集大成）

①親子わらべうた遊び（地域のお年寄りも加わって）

②木のおもちゃ遊び（飛騨産の木のおもちゃで遊ぶ）

③ほっこりティータイム

（地域の方々も加わって、子育ての悩み相談、地域や子育てに関する情報交換）

* 謝金、交通費一切不要

* 親子2組から訪問



4. 実施体制 (地域ぐるみの支援体制)

高山市
子育て支援課

- 活動の広報
- 支所との連携

高山市
協働推進課

- 活動の広報
- まち協との連携

各地域
子育て支援団体
ママサークル
有志参加者

- ボランティアスタッフ提供/養成
- 当日参加(つながり作り)
- 交流事業や相談事業を開催

高山市
各まちづくり協議会

- カフェ会場提供
- 地域の子育て家庭への広報
- ボランティアスタッフ提供/養成
- 当日参加(つながり作り)

『親子で楽しむワイワイカフェ』
NPO法人飛騨高山わらべうたの会

- 実施日時調整・人員配置
- ワークショップ材料の手配
- カフェに必要な物品準備
- 告知チラシの作成
- 情報発信、HPなどへ掲載

中日新聞、岐阜新聞、
地元TV、地元新聞など

- 活動の広報

MCF
モバイルコミュニケーションファンド

- 活動の運営資金助成
- 活動に対するアドバイス
- 四半期ごとの確認

高山市
社会福祉協議会

- 各地社協との連携
- 地域の子育て家庭への広報
- 当日参加(つながり作り)

ひだ子ども家庭支援センター
飛騨子ども相談センター

- 深刻な相談に対する対応

5. 活動の成果

- 1年目：30か所、合計314組の親子と地域の方々が交流した
2年目：令和元年9月～令和2年2月現在
21か所、合計178組の親子と地域の方々が交流した

● 高山市が動いた！

- ・ 高山市主催「協働のまちづくりフォーラム（1月26日開催）」にて、大八まちづくり協議会との協働で開催した「ワイワイカフェ」の成果発表
- ・ 「ドコモ市民活動助成」を倣って、「**市民活動事業補助金：協働促進事業助成**」という補助金を策定（NPO×まちづくり協議会）
- ・ 訪問・支援を必要とする家庭への支援協力依頼（子育て支援課、保健センターとの連携）

● まちづくり協議会が動いた！

- ・ 令和2年度、まちづくり協議会と協働で実施する「ワイワイカフェ」は、6か所！（まち協には乳幼児親子を対象とする部会が皆無）
- ・ ボランティアスタッフの発掘、養成への協力

- 高山市周辺の自治体（飛騨市、白川村）からも定期的な開催の依頼

5. 活動の成果（参加者の声）

●参加者アンケートからー

「参加してみていかがでしたか？」(複数回答可)

- ・親子で楽しめた .. 100%
- ・こういう機会があるとありがたい .. 100%
- ・子どもが楽しそうだった .. 96%
- ・母親同士で交流できた .. 90%

【感想、意見】

「よそからお嫁に来て、遊びに行ける所が分からず、児童センターも遠いため、孤独だったが、地域の方と顔見知りになれて嬉しかった。」

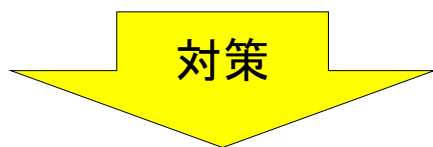
「子どもと二人きりで毎日過ごすのがつらかったが、参加してよかった。」など



6. 残された課題と対策

● 本当に必要な親子に届いているかー

- ・協力してもらえないまち協もある
- ・回覧やSNSで告知しても、そもそも本当に支援を必要とする親子が参加しようと思うかどうか。
- ・情報を必要としている親子への広報方法の検討が必要

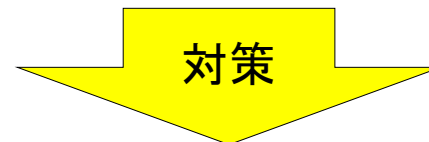


- ・それぞれのまち協へ出向いて、協力を依頼。必要性や成果を丁寧に説明していく
- ・HP、Facebook、回覧に加えて、インスタやLINE@などのSNSを使って、情報発信を行っていく
- ・令和2年度からは、行政(保健センターや子育て支援課)との連携が実現
⇒ 本当に必要な親子の所へ訪問できる

地域ぐるみで、みんなで子育て

● 人材の育成(急務)

- ・団体スタッフのスキルアップ
- ・各地域の子育て支援スタッフの発掘・育成



- ・わらべうた遊びや木育のスキル、傾聴やカウンセリングなどのスキルを高めるための研修を開催すると共に、マニュアルを作成する
- ・まち協や様々なネットワークを使って、地域人材を発掘し、養成していく

● 継続していくための運営資金は？

- ・「ドコモ市民活動助成」が終了してからの運営資金の捻出をどうするか？



- ・高山市市民活動事業補助金(協働促進事業)を活用
- ・企業協賛を集める